

＜モーセと共にいたように＞

ヨシュア記 1 : 1～9

＜尾山令仁牧師＞

96歳まで主に仕え、主の元に凱旋された。

わたしは勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。 IIテモテ4 : 7、8

ヨシュア記は、モーセが死んだことを告げるところから始まる。

さて、主のしもべモーセが死んで後、主はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに告げて仰せられた。

「わたしのしもべモーセは死んだ。」 【1、2節】

- ◆40年間、荒野で民を導いたモーセの後、今度はヨシュアが民を導き、約束の地へ入って行く。その民といえ、反逆を繰り返すうなじのこわい民
*牛がくびきをかけられるのを嫌って抵抗する表現・頑固、手に負えない。
- ◆神が約束された地とはいえ、様々な困難が予想された。一筋縄ではいかない道のり。しかも、偉大なリーダーモーセは死んだ。

「事実を知っている」と「事実を受け止める」は違う。

事実を受け止めるには覚悟が必要。そしてその覚悟は、前を向かせてくれる。

今、あなたとこのすべての民は立って、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地に行け。あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたに与えている。 【2、3節】

喪失感、恐れ、迷うヨシュアに、するべきことを命じられた。

わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。 【5節】

「モーセとともにいたように」・・・これはヨシュアにとって何を思い出させたか。

【申命記】

約束の地を目前にしたイスラエルの民に、モーセが出エジプトから荒野の40年がどんなであったかを回顧し、神様の命令をもう一度改めて語り教えている。

先人の信仰が語り継がれることの大切さ。

次の世代も神の祝福の中を歩んでほしい。その祈りと願いがあるからこそ。

しかし・・・

もし伝える側が100%神への信頼による信仰に生きていなければどうか。

いい加減にしか信じていなければ、伝わるのだから・・・？

モーセは神のことばを観念的ではなく、実践的に信じた。そして民に語り継いだ。

それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった。

この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。

あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練されることを、知らなければならぬ。

申命記 8 : 3～5